

見据えたまちを創生する」を目標とし、子ども・高齢者・障がい者などが、住み慣れた地域で暮らし続けられるまちの実現を目指します。

子育て支援と豊かな教育の実現

切れ目ない子育て支援の推進のため、長期的な視点に立って少子化対策を進める観点から、結婚、妊娠、出産、子育ての各段階に応じ、きめ細やかな対策を総合的に推進することが必要であります。

特に、仕事と家庭の両立と待機児童の解消が重要課題とされています。平成27年度から実施されている「子ども・子育て支援新制度」に基づき、幼児教育、保育、地域の子育て支援の「量的拡充」として、子育て支援に関する拠点整備の計画的な整備や事業量の拡充を行い待機児童を解消するとともに、「質の向上」として、質の高い人材確保、小規模保育の体制強化や病後児保育等を推進し、多様化する保育ニーズに対応いたします。

将来を担う子どもたちが、確かな学力と豊かな感性、健やかな心身を磨き、生きる力を育むために、学校教育の充実を図ります。

元気を生み出す産業の振興

商工会議所や商工会、観光協会等の商工関係団体と連携し、周辺地域のコミュニティの形成に資するよう中心市街地の活性化に努めるとともに、本市が持つ歴史や文化、地域の産業、伝統、自然といった地域資源を最大限に活用した、個性溢れる魅力あるまちづくりを進めてまいります。

また、名崎工業団地における日野自動車古河工場の本格稼働が見込まれるなか、名崎工業団地の整備促進や交通利便性等の優位性を活かした産業系土地利用の充実を図り、さらなる企業誘致の促進や経営基盤の充実支援を進め、産業の活性化や生産性の向上に努めます。

災害に強いまちづくり

災害に強いまちづくりは、現在古河市に住む市民のためだけではなく、将来に向けて市の魅力をアピールしていくための要素としても重要であります。

今後においても、市民の防災意識の高揚を図りながら、市民・事業者・行政などの連携のもと地域防災力の強化を図っていくとともに、災害に強い都市基盤の整備や、公共施設の耐震化、防災無線など災害時の情報伝達力の強化などに努めていきます。

市民の夢がかなうまちづくり

1市2町が合併し、新生古河市の誕生から11年が経過し、日野自動車古河工場の誘致をはじめ、「新市建設計画」に位置づけされている将来に希望の持てる都市基盤整備は順調に推移してきたかに見えました。しかしながら、日本全体が人口減に悩む中、本市においても例外ではなく、生き残りをかけた地方自治体の創意工夫が試される時代が到来しております。

「新市建設計画」には、新市における一体感の醸成と合併に対する市民の期待に応えるため、4つのプロジェクトを定めております。合併当時とは状況の変化もありますが、現在においても地域構造の有機的な関連の向上を目指すためのプロジェクトであると考えております。

一つ一つの施策実現に向け強い意志を持ち、スピード感を持って推し進めなければなりません。実効性を確保するため、これから4年間の優先的かつ重点的施策を取りまとめ、進捗管理をしていきたいと考えております。

